



TITLE:

廣島支部便り

AUTHOR(S):

CITATION:

廣島支部便り. 天界 1934, 15(164): 80-80

ISSUE DATE:

1934-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166915>

RIGHT:

廣島支部便り

空高く秋冷の氣漸く深くならうとしてゐます。星の光も益々冴えて参りました。

事既に舊聞に屬しますけれど、當廣島支部は今年に入つてから俄然活躍を始め、既にその第一回報告は『天界』七月號に致しました通りです。更に引續いて第二、第三回の會合が御座いましたので、その報告を致します。第二回は去六月廿日(水)午後七時より鷹の橋『湖水』に於て開催、生憎く折柄の降雨の爲會するもの眞田氏外五名の會員でした。當夜は會員磯貝勇氏の『星の和名』と題する御講話あり、氏は野尻先生と共に斯の方面の一權威で、その御話は誠に興味深いものが御座いました。

第三回は七月十八日(水)午後七時から前記『湖水』にて開催、當夜は會員中村鏡氏の『簡単に仕上がる反射鏡の作り方』と題する御講話がありました。氏は豊富なる實地の經驗を以て、多數の實物材料を示されながら御話下さいましたので、思はず自分で一度やつて見たいといふ氣が起りました。會する者七名で殆んど每會合御出席下さる方ばかりで、眞田氏を始め、中村、森下、藤本、和田、渡邊の諸會員の外一名でした。當支部は毎月例會を開く豫定ですが、八月は暑中の故休會とし、九月から再び開催の豫定で御座いますから、當地御在住の會員諸氏は何卒奮つて御參會下さらん事を願ひ致します。

九、九、十二記(W)

編輯だより

人間の熱力と忍耐は唯それのみで如何に偉大な成果を築くものであるかと言ふ事が吾人の眼前に示された。而かも草場氏は本會々員でさる事を誇りたい。此處に尙一つ誇りたい事がある、……本會の功勞者池田政晴氏が難中の難關たる高等教員檢定(植物科)に見事合格された事です。御存じの方もある通り畑違いより獨歩で樹立された植物學者です。氏のいとも朗らかな顔が昨今屢々花山を訪ねて來られます。

去る十月より新理學士堀井政三君が編輯を手傳はれるやうになつて、目下編輯部は大氣焔、今後の我々の奮闘振りを期待して戴きたい。——忙しい今年も後一ヶ月餘、明年の新計畫を建てながらも財政の苦しさには悩まされてゐる。願はくは愛讀者達の倍舊の御援助を希つておきたい。新年號よりは可能的の新裝と奉仕に努力する豫定です。天界の投稿規定に従つてドシドシ編輯机上を賑はして戴きたい。——愈々内外共に事實上非常時を迎へる秋は來た。廣く讀者の新春への發展と健康を祈りつゝ筆を納めやう。(T. T. 生)